

<令和4年度3学期 修了式>

皆さん、おはようございます。令和4年度の締めくくりである修了式を、このように対面で開催できることを嬉しく思います。

さて、今日は、「言葉の力」についてお話しします。

まずは、私事です。今週月曜日に子どもの卒業式に参列した時に感じたことからお話しします。

P T A会長が祝辞の中でこんな話をされていました。

～「吐く」という漢字を思い浮かべてください。口偏に＋（プラス）と－（マイナス）が付いているのが分かりますか？辛い時には「ああ、辛くて仕方がない」「もういやだ」などのマイナスの言葉を発することが多いと思います。しかし、辛いときにこそ「くじけないぞ」「次こそはがんばろう」などのプラスの言葉を発する人もいます。これは、マイナスが取れ、プラスだけが残るということ、つまり口偏に＋（プラス）という漢字「叶う」になる、思いが叶うという訳です。～

「吐く」や「叶う」という漢字の本来の成り立ちは、別の意味があります。しかし、「吐く」や「叶う」という言葉に生き生きとした意味を与えたなと思いました。私だけでなく、式に参列していた多くの卒業生や保護者が「ああ、なるほど」と感じたような空気になりました。

一昨日まで開催されていたW B C（ワールド・ベースボール・クラシック）において、日本代表「侍ジャパン」は見事優勝しました。私はここでも随所に「言葉の力」を感じました。不振に喘いでいた村上選手が準決勝戦で見事勝利を決めるサヨナラヒットを打ちました。その時の様子を振り返った試合後の村上選手と栗山監督のコメントです。

～村上選手：打席に入る直前、コーチから栗山監督の言葉を伝えられた。「お前に任せた。思い切っていってこい。」みんなに助けられたし、監督の言葉にも救われたし、チームの団結を感じた。

栗山監督：彼を信じる気持ちはゆるぎないものがある。～

もう一つは決勝戦直前のロッカールームでのことです。円陣の中心でアメリカチームのスター選手の名前を挙げた後の大谷選手の言葉です。

～今日だけは懂れるのをやめよう。僕らは超えるために、トップになるために来た。～

「侍ジャパン」の選手たちの本気モードのプレーに魅了されましたが、あのようなすごいパフォーマンスが生み出される背景には、選手や監督の心の底から発せられる「言葉の力」が存在しているのだと強く感じました。

言葉には人を動かす大きな力があるのだと改めて思います。今お話しした2つの事例は、良い方向に人を動かす「言葉の力」ですが、言葉によって人を傷つけたり、自分の思いをうまく伝えられなかったりする事例も多くあります。SNSなどで人と簡単につながることができるようになった分、勢いで口をつく安易な言葉の応酬ではなく、自分の思いをきちんと伝えることのできる「力のある言葉」を発せられるようになりたいと思います。

これに関連して、一冊の本を紹介します。長年、高校生の小論文指導に携わってきた文章表現・コミュニケーションインストラクターの山田ズーニーさんが書いた『伝わる・揺さぶる！文章を書く』という本です。

この本は鷺高生の皆さんに読んで欲しい本の一つです。この本の中で、山田さんは自分の根っこの想いのことを「根本思想」と名付けています。文章を書くとき、つまり誰かに自分の想いを伝えるとき、自分の根っこにある想いはごまかすことができない、それに忠実であるべきだと説いています。皆さんにも、ぜひ自分の心の奥底にある根っこの想い（「根本思想」）をあらわす大切な言葉を見つけて欲しいと思います。その言葉は必ず自分や他者の力になるはずです。

最後に、鷺宮高校の根本思想、大切な言葉は何か、皆さんは分かりますね。

「鷺高の4 C」＝「挑戦」「協調」「信頼」「創造」です。一つ一つが大切な意味のある、力のある言葉です。

以上で3学期修了式の私の話を終わります。